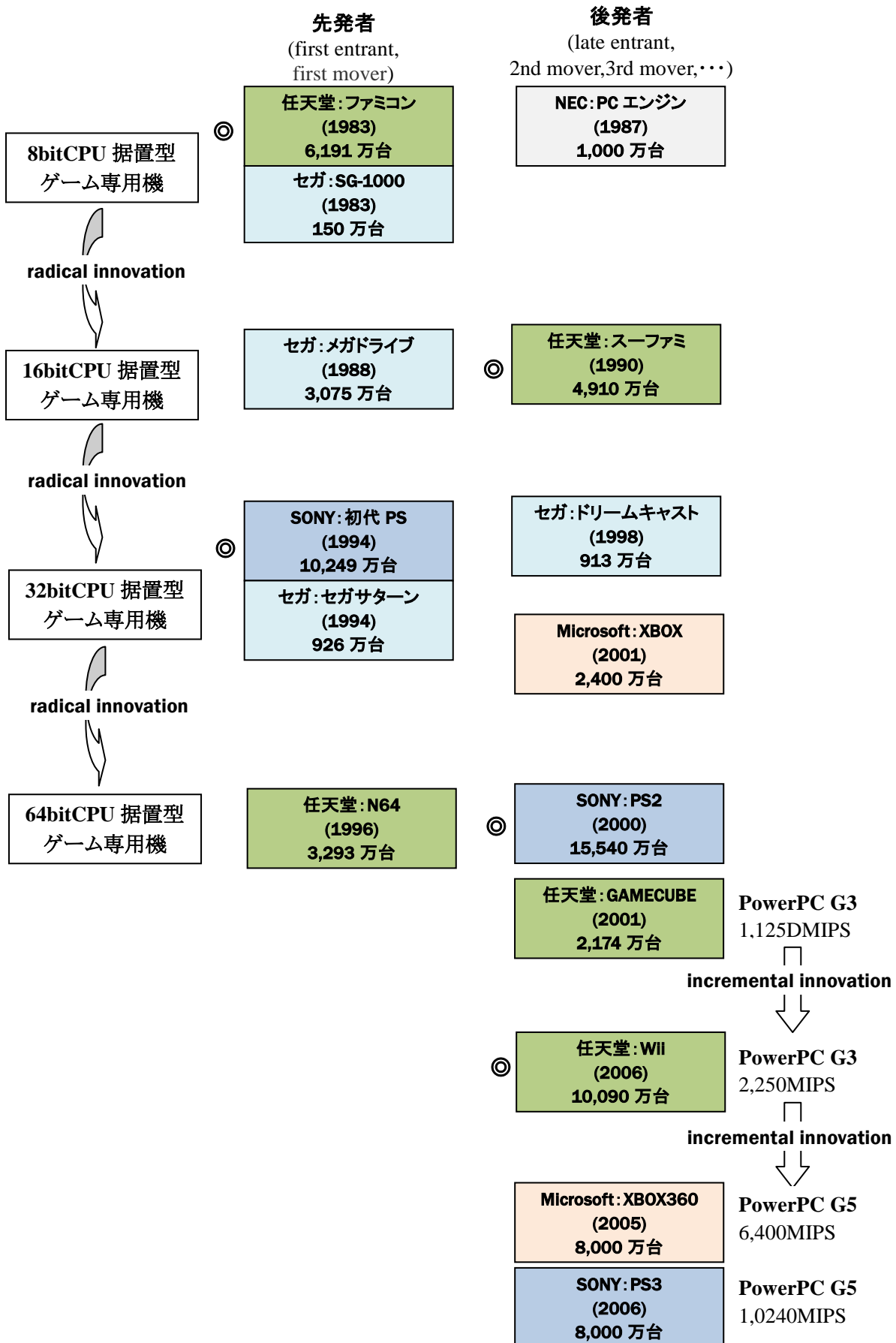


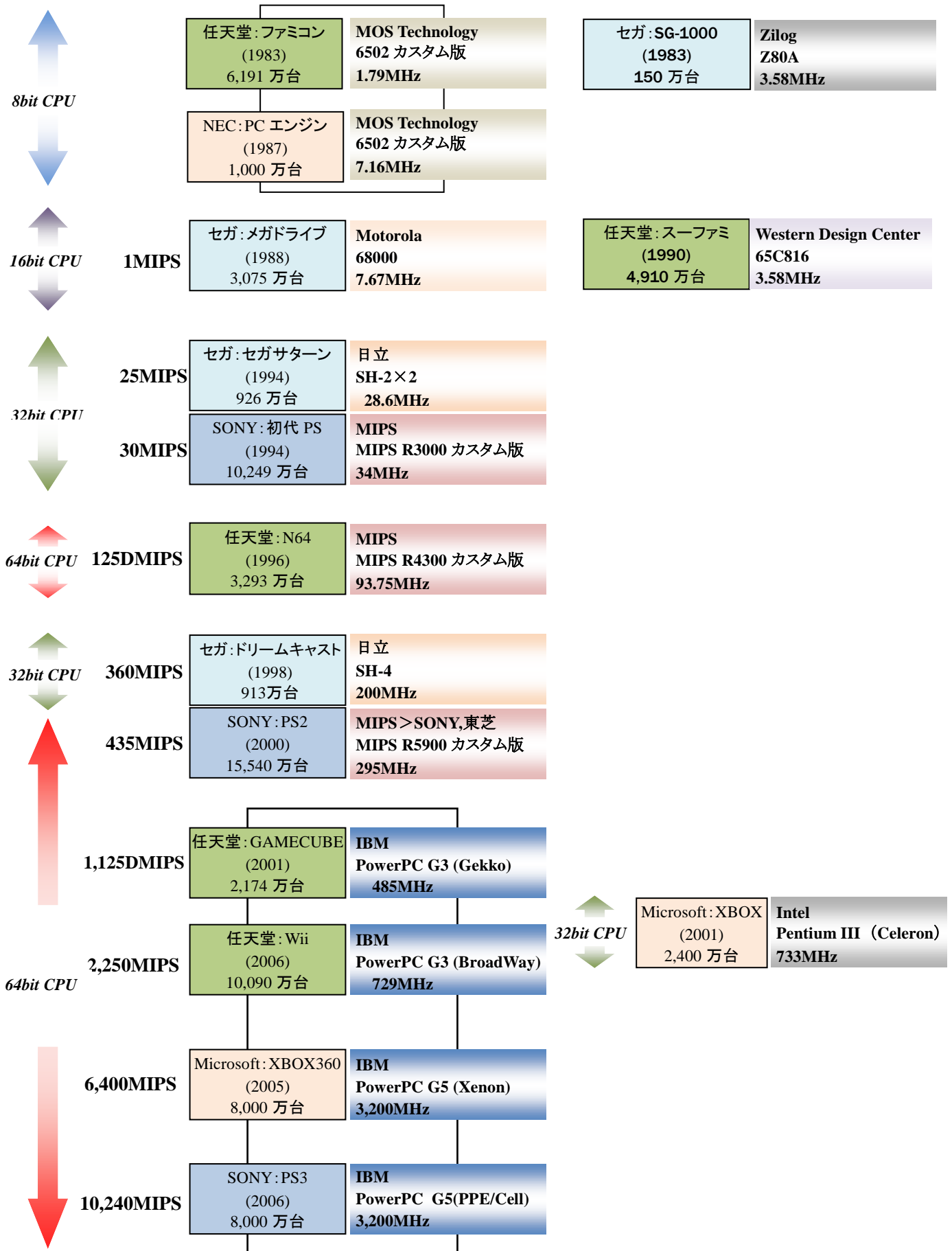
据置型ゲーム専用機における様々な性能指標の歴史的推移

1. 「CPUが一度に処理できる情報量」という性能指標から見た技術発展



累計出荷台数は『CESA ゲーム白書』2014年版,p.159 ほかに基づく数値である

2. 「CPUが一秒間に実行できる命令数」という性能指標から見た技術発展



3.外部記憶装置の性能指標から見た据置型ゲーム専用機の技術発展

(1)記憶容量という性能指標から見た、外部記憶装置の技術発展

記憶容量 ⁽¹⁾		
16KB-32KB	ROM カートリッジ	任天堂のファミコン(1983)用 ROM カートリッジ [容量は 1980 年代前半の値]
両面で 112KB	Floppy Disk	任天堂のファミコン用ディスクシステム(1986)で用いられた ディスクカード
640MB	CD-ROM	SONY 初代 PS(1983) CD-ROMドライブ [倍速 CD-ROM、データ読込速度 300KB/s、直径 12cm]
1GB	GD-ROM	セガ ドリームキャスト(1998) [データ読込速度 1.8MB/s、直径 12cm]
片面 1 層 4.7GB 片面 2 層 8.5GB	DVD-ROM	SONY PS2(2000)内蔵 DVDドライブ [DVD は 4 倍速でデータ読込速度 5.4MB/s、CD は 24 倍速、直径 12cm]
片面 25GB 両面 50GB	ブルーレイ-ROM	SONY PS3(2006)内蔵ブルーレイドライブ [標準読込速度 6.75MB/s、直径 12cm]

(2)外部記憶装置の技術発展に関わる性能指標の多様性 --- 読込速度、書換可能性

外部記憶装置の性能指標には、記憶容量・読込速度・書込速度・書換可能性などがある。ROM カートリッジは、記憶容量が相対的に小さくデータの書換もできないが、データの読込や書込は相対的に高速である。CD-ROMはROMカートリッジと同じく記憶データの書換ができずデータの読込や書込も相対的に低速であるが、記憶容量は相対的に大きい。それゆえ記憶容量という性能指標から判断すれば ROM カートリッジから CD-ROM への製品イノベーションは性能向上であるが、データの読込速度や書込速度という性能指標から判断すれば性能低下である。

[参考資料 1]任天堂のディスクシステム

任天堂がファミコン用の周辺機器として 1986 年に販売開始した「ディスクシステム」は、データへのアクセス速度や転送速度といった点に関しては ROM カートリッジよりも劣ってはいたが、記憶容量、製造コスト、書換可能性という点では優れていた⁽²⁾。1980 年代前半の ROM カートリッジの記憶容量が 16KB ないし 32KB であったのに対して、ディスクシステムは 112KB

(1) ファミコンのディスクカードの記憶容量は、「【任天堂「ファミコン」はこうして生まれた】 第 9 回: ディスクシステム、ROM の大容量化に押され短命に」<http://trendy.nikkeibp.co.jp/article/special/20081002/1019391/?P=2> の記載に基づくものである。ディスクカードの基となったクイックディスク(Quick Disk)のアンフォーマット時の容量は、片面 64KB、両面 128KB である。

また GD-ROM のデータ転送速度は <http://www.dvd-access.com/news/000116.shtml> の記述に基づくものである。

(2) 任天堂(2004)「ディスクシステムとは?」『Nintendo Online Magazine』2004 年 8 月号, <http://www.nintendo.co.jp/nom/0408/what/> ではディスクシステムの大きな特徴として「ROM カセットを上回る大容量」「価格を安価に抑えられる」「データのセーブ、保存ができる」という 3 点を挙げている。

と 3.5～7 倍の記憶容量であった。また販売価格は ROM カートリッジの低下が 4～5 千円に対して、ディスクカードは 2,600 円であったし、小売店の店頭に設置されたディスクライターでのデータ書換により新しいゲームを 500 円で入手できるようになっていた。

結果として累計で 400 万台以上という販売実績を挙げた⁽³⁾が、世界で 6,191 万台、日本で 1,935 万台というファミコンの累積販売台数からすればその普及率はそれほど高いものではない。ディスクシステムの販売台数は発売年の 1986 年こそ 224 万台と好調であったが、1987 年は 75 万台、1988 年は 29 万台、1989 年 11 万台と急激に減少した⁽⁴⁾。

こうしたディスクシステムの不調の技術的要因は、半導体の低価格化や技術進歩により ROM カートリッジの大容量化がコスト的・技術的に可能になったことや、ROM カートリッジでもデータのセーブができるようになったことによるものである⁽⁵⁾。実際、ディスクシステムの販売開始年にはすでにディスクシステムとほぼ同容量の 1M ビット ROM カートリッジ、および、約 2 倍の容量の 2M ビット ROM カートリッジが出現している。ディスクシステムの記憶容量が 112KB と固定であったのに対して、ROM カートリッジの相対的大容量化が急激に進んだ結果としてディスクシステムの技術的な相対的競争優位性は持続せず、製品寿命は短命に終わったのである。

ディスクシステムで採用されたクイック・ディスクのドライブ装置は、任天堂の製品開発者の視点から見ると、「データの書き込みや読み出しには 8 秒程度と時間がかかった」けれども、「テープ・レコーダ用ヘッドを流用でき、駆動装置のコストを抑えられる」というメリットがあった⁽⁶⁾。なおドライブ装置そのものは低価格パソコンの MSX でも採用されたため、販売ソフトの不正コピー対策として、ディスクには「NINTENDO」というロゴが刻みこまれ、「駆動装置側にクイック・ディスクのロゴとぴったりかみ合う凹凸を付け、ディスクと駆動装置の凹凸がきちんとかみ合わないとディスクを読み書きできない」ようにカスタマイズされていた。これにより MSX 用クイック・ディスクにコピーしたソフトは利用できないような仕掛けが施されていた。

[参考資料 2]

GD-ROM(Gigabyte Disk ROM)の採用には、「大容量化」という性能向上、および、「不正コピー対策」という新機能の付加といった二つの技術的目的があった。

[ゲーム専用機の累計販売台数の数値の典拠]

PC エンジンおよび XBOX シリーズを除く据置型ゲーム専用機名の最下段の数値の出典は、コンピュータエンターテインメント協会(2009)『2009CESA ゲーム白書』コンピュータエンターテインメント協会,p.217 である。これらの数値は、2008 年 12 月 31 日現在時点のもので、任天堂は世界累計販売台数で、その他は世界累計出荷台数である。

XBOX の数値は、2007 年 9 月末時点のもので、Thorsen ,Tor (2007) "Sony: 120 million PS2s sold" GameSpot (Post ed Oct 26, 2007 2:30 pm PT),<http://www.gamespot.com/news/6181828.html> の記事に基づく世界累計販売台数である。(なおジェトロ経済分析部日本経済情報課(2006)「日本のテレビゲーム産業の動向」http://www.jetro.go.jp/jfile/report/05001299/05001299_001_BUP_0.pdf,p.11 によると、2005 年 12 月 31 日現在時点での XBOX の世界累計出荷台数は 2,042 万台である。)

また XBOX360 の数値は、日本マイクロソフトの 2009 年 9 月 2 日の報道発表資料(<http://www.xbox.com/ja-JP/report/20090902.htm>)に基づく 2009 年 6 月時点における世界累計販売台数である。なおファミ通.com(2009)「Xbox 360 の国内累計販売台数が 100 万台を突破！ プレイステーション 3 は累計 300 万台に」http://www.famitsu.com/game/news/1223150_1124.html の記事によると、XBOX360 の日本国内における累計販売台数は、2009 年 3 月 29 日現在時点で 100 万 1191 台に止まっている。

PC エンジン(北米での名称は TurboGrafx-16)の数値は、Snow,Blake(2007) "The 10 Worst-Selling Consoles of All Time" Gamepro.com, July 30, 2007 08:25 AM PST, <http://www.gamepro.com/article/features/111822/the-10-worst-selling-consoles-of-all-time/> の記述による世界累積販売台数である。なお同 WEB ページによると北米での累積販売台数は約 250 万台である。

セガの SG-1000 の数値は、矢野経済研究所編(1993)『マーケットシェア事典 1993 年版』矢野経済研究所,p.83 に記されているセガの 8 ビットゲーム機の累積販売台数である。

(3) 400 万台以上という数値は、任天堂(2004)「ディスクシステムとは？」に基づくものである。その Web ページでは「ハードの周辺機器として大きな成功を収め」とされている。

(4) 高橋健二(1991)『スーパーファミコン任天堂の陰謀』光文社,p.91 および p.93 の記述に基づく数値である。

(5) 任天堂「ディスクシステムの生みの親 上村氏インタビュー」『Nintendo Online Magazine』2004 年 8 月号, <http://www.nintendo.co.jp/nom/0408/interv/index.html> における上村氏の分析による。

(6) 「【任天堂「ファミコン」はこうして生まれた】 第 9 回: ディスクシステム、ROM の大容量化に押され短命に」<http://trendy.nikkeibp.co.jp/article/special/20081002/1019391/>

Data アクセス 記憶
書換 速度 容量

×	高速	ROM カートリッジ	任天堂のファミコン(1983)
○	低速 112KB	Floppy Disk	任天堂のファミコン(1983)用のディスクシステム(1986)
×	低速 640MB	CD-ROM	SONY 初代 PS (1983) 倍速 CD-ROM(300KB/s) 直径 12cm
×	中低速 1GB	GD-ROM	セガ ドリームキャスト(1998) 1.8MB/s
×	中速 4.7GB	DVD-ROM	SONY PS2 (2000)
×	低速 25GB	ブルーレイ-ROM	PS3 (2006)

SNK: ネオ・ジオ
(1991)

Motorola
68000
12MHz

媒体の記憶容量から見た発展

ROM カートリッジ

CD-ROM

GD-ROM

DVD

ブルーレイ

劇的な性能向上を実現した製品イノベーション

任天堂: ファミコン→スーファミ

セガ: SG-1000→メガドライブ